

●除排雪課題マップについて（地域と創る冬みち事業／札幌市白石区）

地域と創る冬みち事業

「冬みち事業」とは？

札幌市の雪対策を取り巻く環境は、厳しい財政状況、雪たい積場の不足や遠隔地化、除雪機械の老朽化や排雪ダンプの不足など、年々厳しさを増しています。一方、除雪に関する市民ニーズの内容は高まりをみせており、毎年、除雪に関することが市政要望の上位の項目となっています。

これらの課題に対応するため、札幌市では平成18年4月に「雪に負けないサッポロづくり本部」を立ち上げ、様々な問題について検討を行っており、この中で市民との連携強化のための取り組みとして「地域と創（つく）る冬みち事業」（冬みち事業）が行われています。

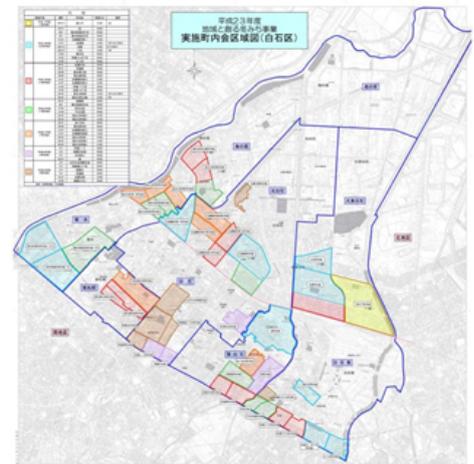
「冬みち事業」は、地域の方に札幌市の除排雪の実態を知っていただくとともに、地域の除雪の課題を話し合うために、町内会単位で懇談会を開催し、現行の予算の中で課題を少しでも解決できるような除雪の工夫などを行う、試行的な取り組みです。

地域懇談会について

地域懇談会の実施状況（白石区）

懇談会は平成17年度から試行的に始められ、平成23年度までに白石区で66の町内会で実施されました。

年度	町内会数
平成17年度	1
平成18年度	24
平成19年度	10
平成20年度	14
平成21年度	7
平成22年度	4
平成23年度	6
合計	66



▲ PDF 実施町内会区域図 (PDF: 1.029KB)

地域懇談会で出された主な意見

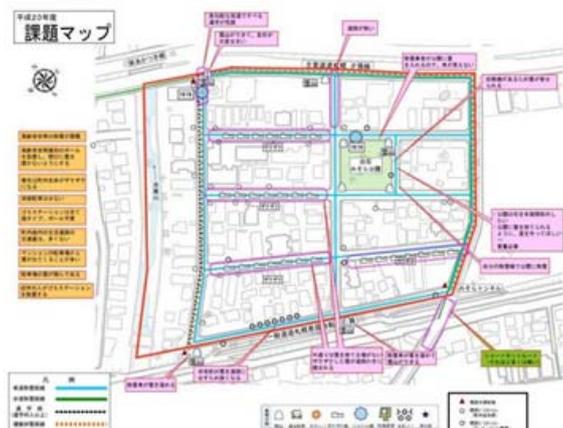
地域懇談会では、市の除排雪の実態を知ってもらうとともに、ワークショップ形式で、地域の皆さんが普段から思っていること、考えていることを図面に書き入れながら、意見の洗い出しをしてもらいました。

平成23年度の地域懇談会で出されていた主な意見としては次のようなものがありました。

- ・ 交差点に雪山ができ危険
- ・ 路上駐車が多く除雪の障害になっている
- ・ 雪捨て場として公園を利用できないか

・ツルツル路面に砂をまくので、砂箱を設置できないか

また、皆さんで議論していただいた地域の課題は、最後に「課題マップ」としてまとめられました。



▲ PDF 課題マップの例 (PDF: 585KB)

地域懇談会での意見交換の様子

地域懇談会は、各テーブル 6～8 人ぐらいに分かれてもらい、テーブルごとに議論していただくワークショップ形式で行われます。この形式で行うことで、住民の皆さんと行政側が向かい合う意見交換より多くの意見を集約することができます。

平成23年度に地域懇談会を新規に実施して、行うこととなった主な取り組み

除雪状況の合同点検

町内会、札幌市、除雪業者の3者で、懇談会で作成した「課題マップ」に基づき、町内の除雪状況を点検します。点検の結果、問題のある箇所については、市と除雪業者で対応を協議します。



▲町内の除雪状況を点検



▲問題のある箇所は対応を協議

ルールを決めて、公園を地域の雪置き場として利用

ルールを決めて、市と町内会で「覚書」を締結し、公園を地域の雪置き場として利用します。
(公園利用の主なルール)

- 公園の遊具、フェンス等を壊さないこと
- 人力(スノーダンプ程度)で入れること
- 春先の清掃を行うことなど



▲地域の公園を利用



▲人力による運搬などのルールを決める

モラル啓発のための活動

- 迷惑駐車に対して、町内会、市、警察と合同パトロールを実施
- 迷惑駐車注意ステッカーを町内会に配布して活用してもらう
- モラル啓発のチラシを市で作成し、町内会で配布してもらう



▲迷惑駐車の間パトロール



▲ [PDF](#) マナー啓発のチラシ(PDF: 340KB) などを作成

砂箱の設置、町内の方による砂まき

町内で必要とする箇所に市が砂箱を設置し、必要に応じて、町内の方に散布してもらいます。



▲砂箱(簡易型)を設置

※取り組み内容は町内会によって異なります

冬みち事業の評価

懇談会の参加者に行ったアンケートでは懇談会を行うことについて、8割の人が「良いこと」と答えています。

また、平成 22 年度に懇談会を実施した地域にお住まいの方に行ったアンケートの結果からも、懇談会の実施や取り組みについては、一定の評価をいただいています。

